



特別増資 500250 にて 1口 500 円毎週受け付けています。出来るときに出来る範囲で、**ご協力宜しくお願い致します!!**

COOP JOSO NEWS LETTER 2018 3-3

2018. 2. 3. 5

facebook やって
います!

COOP JOSO News Letter

常総生活協同組合
発行 / 生協広報G



【ものづくり・人づくり・地域づくり】2017 年度活動テーマ ～地域のやさいを食べよう～

第 23 期 (2018 ~ 19 年度) 「役員」選挙公告

2018 年度 「総代」選挙公告

【役員選挙管理委員】

杉藤 雅子
千葉 節子



「役員」選挙公告

せいきょうの役員

- ・わたしたちの生協の主役として組合員が運営を行い、職員と協力して事業と活動をすすめます
- ・任期は2年間です。
- ・地域や年代に偏りがないように、できるだけ各地区から募ります。組合員であれば誰でも理事・監事になれます。職員からも理事を出します。
- ・これまでも各地区から、そして大先輩から赤ちゃん連れの若手理事まで、幅広い年代層で構成されています。
- ・役員は理事と監事があります。

【理事の仕事】

- ・定例（隔月ないし月次）の理事会があります。運営・経営の重要事項を決定します。
- ・生協主催の催し等企画運営します。
- ・地区の総代さんと協力しながら各地区の催し、組合員懇談会などを開催し組合員の交流をはかります。

【監事の仕事】

- ・理事会に監事として参加し、民主的な手続きで運営が行われるように助言します。
- ・決算監査や業務監査（理事会の運営）をおこないます。

2018 年 3 月 1 日

常総生協第 23 期 役員（理事・監事）選挙公告

常総生活協同組合
役員選挙管理委員会
委員長 杉藤 雅子

常総生活協同組合 第 45 回通常総代会開催にあたり、当組合の定款第 19 条及び役員選挙規約第 6 条に基づき、第 23 期の役員選出の公告を行います。

記

1. 定数 理事 15 名、監事 5 名
2. 任期 2 年（2018 年 6 月～2020 年 6 月）
3. 受付け期間：3/5（月）～4/20（金）
4. 立候補をされる方は、担当までお申し出下さい。所定の手続用紙をお届けします。

「総代」さん100名の選出 総代選挙管理委員会からの公告と呼びかけ

生協って安心と便利で大助かり！
 それだけかな？
 総代さんになってもうちよつといろいろな
 こと識ってみたら面白いかも・・・
 (野澤)



【2018年度総代選挙管理委員】
 色川 セツ子
 野澤 寛子
 丸町 芳夫

常総生協の「食」への取り組み
 にもいつも感謝しています。そんな
 常総生協の総代には是非参加して
 みましよう。
 只、注文するだけでなく疑問
 に思う事、もつと生協を知って
 みませんか？
 きつと知らない生協が見えてく
 ると思います。皆様の参加をお
 待ちしております。
 (色川)

常総生協の組合員の皆様へ
 何十年もかかわって常総生協
 を育てていただいた方も、まだ何
 年にもたつていない若い生協組
 員の皆様も、一緒に更なる新し
 い生協を作っていくためにみなさ
 まの貴重な意見や発想を今必要
 としています。
 是非、自分の地域の総代に大
 勢立候補されますよう願ってい
 ます。
 (丸町)

2018年3月1日

総代選挙公告

常総生活協同組合
 総代選挙管理委員会
 委員長 色川 セツ子

常総生活協同組合定款及び総代選挙規約に基づき、2018年度総代の選出を下記のように行います。
 「総代になってみよう」と思われる方は、下記の用紙を供給担当または店舗にご提出ください。追って書類を
 お届け致します。

記

- 「総代」には組合員誰でもがなれます。
- (定数) 100名 (任期) 1年
 ※右側の地区別定数は目安で、立候補の状況によって
 地区間で調整する場合があります。
- 総代の主な役割は次のようなことです。
 - ① 6月9日(土)に予定されている総代会に出席し、
 提案された議題を検討審議し、議決に参加。
 - ② 地区別の活動や懇談会のお世話役。
 - ③ 活動テーマに関連する学習会や講習会に参加。
- 受付期間： 3月5日(月)～4月20日(金)

【総代定数(目安)】		
種	市町村活動組合員数割合定数	
	市町村別	総代目安
共同購入	取手市	20
	守谷市	15
	つくばみらい市	3
	常総市	1
	坂東市	1
	利根町	3
	龍ヶ崎市	7
	牛久市	4
	つくば市	17
	土浦市	4
	阿見町	1
	石岡・小美玉・かすみがうら	2
	我孫子・印西・白井	5
	柏市	5
	松戸市・鎌ヶ谷市	4
	流山市・野田	3
	店舗計	

-----キトリ-----

【2018年度「総代」申し出用紙】 (切り取ってご提出下さい)

組合員区分 (共同購入・店舗) コース名 班名

組合員 No. 氏名 tel

原発事故による子どもたちの健康診断（甲状腺・血液）

生協の子どもたち集れ～！ 念のため検査だよ！ 部活後の中高生・大学生もぜひ

【開催日】2018年5月12日（土）、13日（日）

【会場】守谷市 常総生協本部2F組合員室

（守谷市本町 281 TX守谷駅徒歩7分）

【1】甲状腺エコー検査

（日時）5月12日（土）13-18時半 定員100名

（担当医）野宗義博（島根大学医学部）

（主催）関東子ども健康調査支援基金

（自己負担額）カンパ2,000円

（検査内容）のう胞、結節の有無・数・大きさ・状態

【2】血液検査

（日時）5月13日（日）9-13時 定員100名

（委託機関）江東微生物研究所検査本部（つくば市）

（主催）常総生協（自己負担額）2,000円（実費一人5,000円ですが3,000円を生協子ども基金より補助）

（血液検査項目）

低線量放射線被ばくによる非がん健康影響として甲

状腺機能、血液中の甲状腺ホルモンと免疫細胞（白血球）の状態を確かめる目的で、①一般血液検査、②血液像、③甲状腺機能の検査を行います。

【申込要領】

・下記「受診申込書」に記入の上、生協まで。

・**申込〆切：3月23日（金）**

（FAXでもOKです。0297-45-6675）

・**検診時間帯は生協の方から指定させていただきます。**

・検診カンパ / 自己負担金は当日受付にて。

・「甲状腺エコー検診」は、関東子ども健康調査支援基金として茨城・千葉を中心に他の日程でも開催しています。日程が合わない場合は別会場でも受診できます。「血液検査」は上記日程で原則として生協組合員のみを対象です。

WEBフォームからも申し込みできます。→



-----キリトリ-----

【申込み保護者】		組合員番号（必須）	
保護者のお名前（ふりがな）	性別	(A) 過去に基金の検診を受けたことがある方 保護者のID番号（6桁）	(B) はじめて基金の検診を受けられる方 保護者の生年月日
			西暦 年 月 日

甲状腺検診（受診者）			
検診希望日	□ 5月12日（土）13-18時半		
(A) 過去に基金の検診を受けたことがある方（お子さんの情報）			
お名前（ふりがな）	年齢	お子さんのID番号	性別
			男・女
			男・女
			男・女
(B) はじめて基金の検診を受けられる場合（お子さんの情報）			
お名前（ふりがな）	年齢	生年月日	性別
		西暦 年 月 日	男・女
		西暦 年 月 日	男・女
		西暦 年 月 日	男・女

血液検査（受診者）			
検診日	5月13日（日）9-13時		
(A) 過去に血液検査を受けたことがある方（お子さんの情報）			
お名前（ふりがな）	年齢	お子さんのID番号	性別
			男・女
			男・女
			男・女
(B) はじめて血液検査を受けられる場合（お子さんの情報）			
お名前（ふりがな）	年齢	生年月日	性別
		西暦 年 月 日	男・女
		西暦 年 月 日	男・女
		西暦 年 月 日	男・女

組合をあげて子どもたちの健康調査を持続可能に！

「生協 子ども健康調査支援基金」への協力をよろしくお願いいたします。

2012年から「生協子ども健康調査基金」を設立して組合員さんのお子さんを対象に甲状腺検診、尿検査、血液検査を行い原発事故の被ばく影響の健康調査を支援・実施してきました。その後2013年9月に地域のお母さん達が立ち上がって、「関東子ども健康調査支援基金」が設立され、甲状腺検診は関東の各地域（栃木、茨城、千葉、埼玉、神奈川）を巡回して実施していくようになりました。血液検査だけは生協独自で毎年検診を行っており、2012年に組合員さんから募った基金で費用の一部を補助（実費5,000円のところ、生協基金で3,000円補助し、自己負担2,000円）してきました。

検診開始から6年が経過し、「生協子ども健康調査基金」のお金も尽きてきました。毎年100名以上の組合員さんのお子さんが血液検査を実施しています。原発事故が起きて7年。当時赤ちゃんだった子どもたちが、7歳になり、小学1年生になっています。「あのころは赤ちゃんだったから」「幼児で暴れて・・・」などで受けられなかった子どもたちも、ようやく言い聞かせもできる年頃になり、「血液検査ができなかった」から「できる」に変わるタイミングだと思います。

本来であれば、ホットスポットとなった常総生協の組合員さんが住んでいるエリアは国が責任を持って子どもたちの健康を見守っていく必要がありますが、国は一向にやる気配がありません。でも、「国がやらないからできません。」「子どもたちの健康被害は知りません。」というわけにはいきません。生協だからできる事。組合員が気持ちを寄せ合う事で実現可能になる事があります。

今後も継続的な血液検査は必要であり、子どもたちの健康を継続的に検査できるようにしたいです。「生協子ども健康調査基金」へのご協力をお願い致します。

（血液検査項目）

低線量放射線被ばくによる非がん健康影響として甲状腺機能、血液中の甲状腺ホルモンと免疫細胞（白血球）の状態を確かめる目的で実施しています

- ①一般血液検査
- ②血液像
- ③甲状腺機能

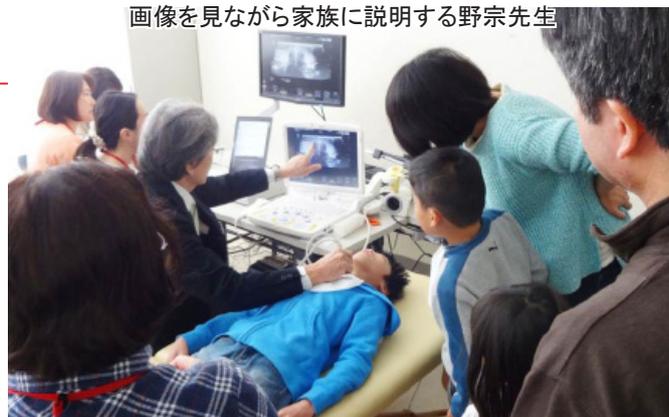
上記3つの検査を行います。

★2018年3月3日より毎週受け付けています。注文番号 **500252**「生協子ども健康調査基金」1口1,000円です。注文用紙に注文番号 **500252** を記載し「1」と記載していただければ1口、「2」と記載していただければ2口となり、複数の口数が記入できます。

組合をあげて子どもたちの健康を継続的に見守れる様に、ご協力宜しくお願い致します。

【甲状腺検診のすすめ】

2011年の原発事故の時に子どもだったみなさんへ 大人になるまでに一度は甲状腺の健康チェック を受けておきましょう！



1. あれから7年～みんな大きくなったわ！

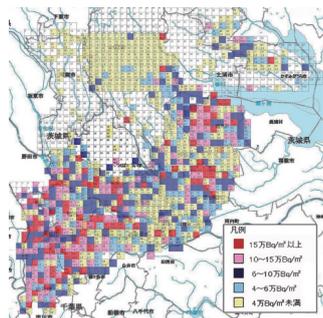
まだみんなが小さい頃だったのかもしれませんが、2011年に大地震と津波で福島の原子力発電所が壊れ、放射能がたくさん外に漏れました。その放射能は250kmも離れた茨城県や千葉県はじめ東日本一帯に飛んできました。

当時生まれたばかりの子はもう小学生。当時小学生だったひとはもう高校生・大学生になっていますね。当時はみなさんは何が起きたのかよくわからなかったことと思います。

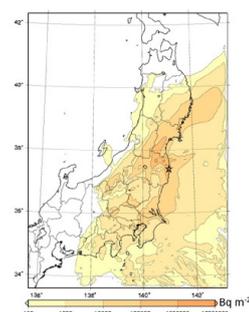
事故直後に情報が伝わらなかったことから避難したり室内にいたりマスクをしたりという、飛んできた放射能からみんなを守ることが十分にできませんでした。日本では原発事故への備えがなかったために、みんなが放射能をどれくらい浴びたか、吸ったかなどがよくわかっていません。

ただ、あとから放射能が地表におちた状況を調べた結果、とてもたくさんの放射能が降り注いでいたことがわかりました。

お母さんお父さんたちはみんなで住んでいる地域の土を集めて放射能を測りました。国も調査をして、特にみんなのいる地域は放射線が高いところとして法律で特別に管理される区域になってしまいま



市民による土壌調査



文科省による調査

した。本当はそこでは生活してはいけないとされているところに指定されました。当時は放射能の「ホットスポット」と言われました。

お母さんたちは、学校の校庭や通学路や公園などの除染（放射能を取り除くこと）を求めたりしてみんなが放射能を浴びたり、舞い上がった砂ぼこりを吸い込むことを少なくしようと努力しました。また食べものにも注意していました。放射線を内外から浴びると、からだの遺伝子を傷つけて、がんになったりするからです。

当時はお家の人から、マスクをしるとか、外で遊んではいけない、これ食べたらいけないと、うるさいことを言われたかもしれませんが（みんなが伸び伸び外で遊べなかったことごめんください。）、お母さん・お父さんはみんなの健康をととても心配していたと思います。

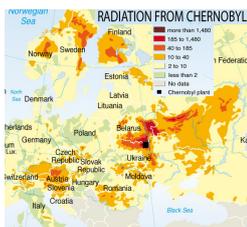
2. 甲状腺がんの心配

原発から飛んできた放射能の中でも、最初に特に多かったのが「放射線を出すヨウ素」（ヨウ素131）というもので、息をしていてたくさん吸い込んでしまったことを今も心配しています。

みんなが大きく成長するのに必要なホルモンの原料がヨウ素です。ふだんは放射能など出さないヨウ素をワカメや昆布から取り入れているのですが、原発事故で放射能を出すヨウ素がたくさん飛んできました。当時、みんなは息をしてたくさんそれを吸い込んでしまっています。

※茨城県のつくば市に国立環境研究所という機関があって、そこで放射能を調べていました。そのデータをもとに放射能をどのくらい吸ったかを計算したところ、3月～6月までの3ヶ月間で、1歳児で648ベクレル（そのうち放射

(食べものの出荷制限値は 100 ベクレル /kg 以下です)
つくば市の子どもたちがこの量を吸っていますので、ホットスポットになった茨城県南部から千葉県東葛地域の子どもたちはその数倍の量を吸い込んでいます。



外国では 30 年以上前の 1986 年に現在のロシアのチェルノブイリというところで原発事故が起きて子どもたちが被ばくしました。数年後から子どもたちの間で「甲状腺がん」が発生しました。

原発事故のあった地元の福島県では、県が子どもたち全員の甲状腺の検査をおこないました。その結果、これまでに 194 人の子が甲状腺がん（または疑い）とされ、159 人の子が甲状腺の手術を受けました。

関東では子どもたちの健康を心配したお母さんたちが力をあわせてお医者さんと協力してみんなの甲状腺の具合を見ることをはじめました。

3. チェルノブイリの子どもたちの医療支援を続けてきたお医者さんのお話し

日本のお医者さんの中には、30 年前のチェルノブイリ原発事故による子どもたちの医療支援を続けてきたお医者さんがいます。関東での子どもたちの甲状腺を見て来て下さっている野宗（のそう）先生です。野宗先生はベラルーシという国での医療を支援し、長い間エコー検査の技術や手術の仕方を伝えてきました。

野宗先生が去年の秋、生協でお話しをしてくれました。原発から遠く 450km も離れているブレスト州という街でも子どもたちの甲状腺がんが増えて、30 年以上経った今も、当時子どもだった人たちの健康診断が国の責任で続いているそうです。



ブレスト地区での甲状腺癌の検診

- 1) 甲状腺癌への関心
- 2) 医療器具の整備
- 3) 病理細胞診の充実
- 4) 医師や検査技師の技術向上
- 5) 電子カルテ化
- 6) 地方の巡回検査システムの完成

福島原発から 250km が千葉県の松戸市ですから、450km というと日本では名古屋や函館です。

日本では「福島県の子どもたちの中での甲状腺

がんは原発事故による放射線との因果関係は考えられない」と言われていますが、野宗先生は「チェルノブイリでは 30 年経った今も続いている。判断するのは早すぎる。ていねいに見続けていくことが大切」とお話しされました。

4. 大人になるまでに一度は甲状腺の検診を！

たまたまこの時代に生まれてこの地域にいたことで福島原発事故による放射線を浴びることになってしまったみんなにはとても申し訳ないという大人たちの気持ちがありますが、日本ではまだ 7 年しか経っていません。

もう少し大人になるまでの間、一度は甲状腺の健康チェックを受けておきましょう。5 月に生協での検診がありますので、ぜひいらっしゃい！

(親御さんへ)

親御さんからも「念のため検診を受けておいたらいよいよ」と声かけてみて下さい。

関東での甲状腺検診はお母さんたちの力で「関東子ども健康調査支援基金」(事務局：常総生協)がすすめています。これまでのべ 7,700 人、個人単位では 4,700 人の子どもたちが受診しています。検診を受けて何も異常がなければ安心です。

関東では事故当時 18 歳以下の子には甲状腺がんは見つかっていません。ただ、4,700 人のうち 100 人ほどの子は「しこり」(結節)が見られていることから今後定期的に観察をしてゆくことになっています。

野宗先生は検診の目的を次のようにのべています。

検診目的

- 1) 小児甲状腺癌の発見
- 2) 甲状腺検診結果の正確な説明
- 3) 甲状腺に異常が起きていないことを証明
- 4) 放射線被曝による健康障害不安の除去

Shimane University Faculty of Medicine 2017

常総生協ではそのエリアが「ホットスポット」になってしまったことから、組合員がみんなで資金を出し合って「生協子ども基金」を設立し、毎年「血液検査」の補助もおこなっています。甲状腺エコー検査に加えて血液検査で甲状腺ホルモンの状態や、白血病の兆候などを検査しています。

5 月の検診は経験豊かな野宗先生が見てくれます。検診は組合員のお母さんたちがスタッフでめんどろ見てくださいので安心です。翌日は血液検査もおこなわれます。生協の仲間はみんな家族と同じですのでどうぞ遠慮せずに申し込んでください。